

国労水戸

「生命」の尊さを忘れない

水戸駅構内事故から20年

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 大和田亨
編集責任者 坂本公則



林弘さんの死を悼み黙禱を捧げる

1993年3月30日、午前1時ごろ常磐線水戸駅構内において、東鉄工業に出向中の林弘さん（当時、水戸保線区佐和管理室）外2名の労働者が自動給油ポイント融雪器取付け作業中に、上野発青森行「寝台特急ゆうづる3号」に触車し死亡する痛ましい事故が発生しました。

3月29日、地方本部は生命と権利を守る3・30集会を地方本部会議室で17時30分から行われました。集会には関係分会をはじめ各職能別協議会（工務・電気・運転・運輸）など多くの組合員が出席しました。集会では、今日のJR会社が進めている効率化施策について触れ、特に工務協議会からは事故当手を振り返り、JR会社の姿勢と対応を厳しく指摘しながら、二度と起こしてはならない事故だと訴えました。

職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！



3・30集会で工務協議会渡辺隆義副議長は、林弘さんへの思いと安全対策等について報告を行いました。始めに、1993年3月30日に発生した事故の背景に触れ、その事故に伴うJR水戸支社の姿勢に対し、「個人の不注意論」で片付けようとした。我々は、JR会社に対し事故の原因追求と背景の検証を迫ってきました。水戸工務協議会は、3・30事故を闘いのスローガンに掲げ取り組みの強化を図ってきました。

（作業巡回中の社員へ連絡なし）など、依然として変わっていない実態と線路閉鎖区間に列車が進入する事故も多発していることが報告されました。「設備メンテナンス再構築」から11年が経過し、一昨年から「設備メンテナンス体制の改善」が実施されたが思うように進まない現状があり、工務協議会は合理化そのものを問題にして、「JR会社の脆弱点は安全問題」と再認識し引き続き闘いを進めて行くことにしました。

しかし、その後も続く重大事故は、2005年10月26日、内原構内巡回中事故（中線待避中に列車が進入）が発生し、2013年2月6日、水戸線新治駅構内及び岩瀬駅構内着線変更問題

最後に、安心して働き続けられる職場、作業環境をつくるために、「安全なくして労働なし、抵抗なくして安全なし」の言葉をかみ締め、工務協議会として奮闘する決意が述べられました。

